

## 2019 年度事業計画書

今年度は以前より懸案であった世代交代のひとつが実現し、事務局長交代による新たな体制でスタートすることになった。

事業を取り巻く環境は依然厳しく、NPO 法人としての本来の活動目標を達成するには人員確保と収益確保が不可欠である。今年度は経営基盤を強化する為、昨年度収益の減少傾向にある訪問介護・通所介護の実績の底上げに注力することとする。また、引き続き人材育成、活動拠点の整備構想についても検討していく。

### (1) 現行事業

#### ①介護保険事業(訪問介護・通所介護・居宅介護支援)

- ・引き続き訪問介護員の増員に努め、利用者様々なニーズに対応可能な配置に努める。
- ・通所介護では運営推進会議、介護相談員の受け入れ、他施設、地域との交流などを通じ、地域に開かれた施設になるように努める。
- ・訪問介護、通所介護とも新規利用者の獲得も行いながら、利用者数の増加にも対応でき、多様な利用者のニーズにも応えられるよう職員の質の向上に努める。
- ・居宅介護支援では 2021 年度より事業所の管理者は主任介護支援専門員であることが求められるため人材の育成、資質の向上に努める。
- ・各事業ともに算定可能な加算の研究し算定可能なものについては検討して取得するよう努める。

#### ②障害福祉サービス

- ・研修等に参加し、障害についての知見を深め必要なニーズにサービスが届けられるようにする。

#### ③外出支援

- ・運転者の健康管理、車両管理に努め、安全運転研修を実施する。
- ・引き続き車両の更新も検討していく。
- ・関係各所と協力し、京丹波町に対し運賃の見直し等の呼びかけを行う。

#### ④「助け合い」活動

- ・当法人自主的な事業ではあるが、利用者にとっては介護保険事業との差が分かりづらい事業になっている、料金の改定等、事業内容の見直しを図りさらに使いやすい事業になるよう検討する。

#### ⑤カフェ事業

- ・4 月より利用料を改定し、職員主体から利用者主体のカフェとなるように内容などの変更しながら運営を進める。

### (2)活動拠点の整備構想・新事業の開発

前年度より引き続き、事業所、事業場の老朽化しており人員の効率化を図るためにも活動拠点の整備、「泊まり」や「小規模多機能」などその時のニーズに合わせた新事業について検討を続ける

以上